

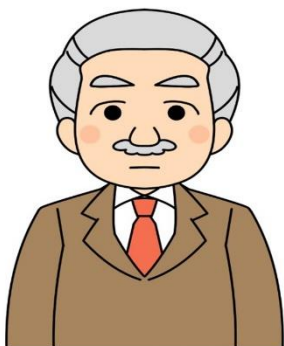
役員の 会社に対する 賠償の一例

民事関係ケーススタディ
紙芝居



Aさん

食品製造販売



B社長



Aさん

法律問題マンガ教材

こちらは、Aさんです。

Aさんはもともと理系タイプで、パソコンが得意でした。

そのため、現在では、WEBコンサルタントとして、インターネットをつかった経営戦略などについて、アドバイスをする仕事をしていました。

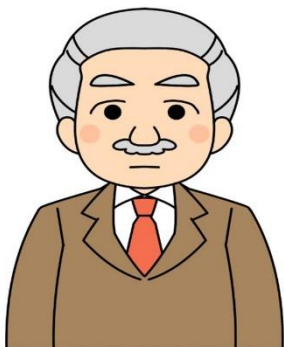
こちらは、Aさんのお客さんのB社長です。B社長は、食品の製造・販売の会社を経営していました。

『Aさん、いつもありがとうございます。先日、Aさんにいただいたアドバイスのとおり、ホームページを変更して、インターネット通販を試みたら、これが大成功しました。Aさんのアドバイスはいつも本当にすごいです』

『そうでしたか、それは良かったです。そう言っただけですと私もうれしいです。

ありがとうございます』

食品製造販売



B社長



『ところで、今日は、相談がありまして、よかったら、Aさんには、わが社の役員に、取締役になってもらえませんか？』

Aさんのアドバイスは本当に的確ですので、もう我が社の役員、取締役になっていただきたいと思ひまして。役員報酬もしっかりとお支払い致します』

『なんと、役員、取締役ですか。そこまで評価してもらえると、とてもうれしいです。謹んでお受け致します』

こうして、Aさんは、B社長の会社の役員、取締役の一人になりました。

こうして、Aさんは、毎月の取締役会にも参加するようになりました。

それから、しばらくのことです。

ある日の、取締役会での出来事です。

B社長の会社の会議室に、たくさんの役員の人たちが集まっています。

ザワザワザワザワザワ・・・

取締役会

ザワザワ ザワザワ ・・・



取締役

**未認可添加物
混入菓子パン
半年前に
販売完了**

**公表
するか？**

『なんか、この取締役会って、重役の人がたくさんいるし、いつも重たい雰囲気だから、とてもじゃないけど発言なんてできないよなあ。あれれ、なんだか、今日は、いつにもまして、会議室がピリピリしている感じがするなあ。いつも会議の内容は専門的なことが多くて、よくわからないんだよなあ。とりあえず、今日も、空気を読んで、おとなしくしよう』

こちらは、大勢いる取締役の中の取締役のひとりです。

『取締役のみなさん、本日の会議もお集まりいただきまして、ありがとうございます。実は、重大な事実が判明しました。

というのも、我社の新商品の菓子パンに、日本では認可されていない添加物が混入してしまっておりました』

『この未認可添加物が混入した菓子パンは、売れ行きがよく、半年前にもう全て販売完了しておりました。残念ながら、いろいろな事情があって、この未認可の添加物の混入を事前に防止することができず、また担当取締役が途中で発見したものの、製造済み商品はそのまま販売してしまいました』

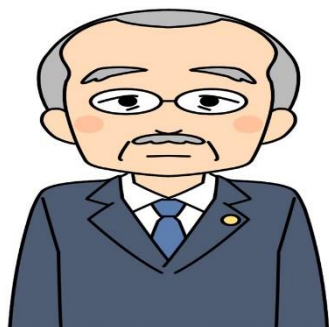
『今日の会議で全取締役のみなさんと話し合いたいのは、今から、この未認可添加物が混入してしまったことを、世間に公表するかどうか？ということです。もし公表すれば我社のイメージは急激に悪くなりますし、炎上してかなり叩かれることでしょう。また株主からの責任追及も大変なことになり、我々役員も個人的に責任追及される可能性があります。それでも公表すべきかどうか、みなさん、ご意見をお聞かせください』

ザワザワ ザワザワ

● ● ●

発言なし 小声が 聞こえる

● ● ●



ザワザワザワザワザワ・・・

誰も発言しようとしませんでした。しかし、会議室の各所で、ボソボソ話す取締役が複数います。

『公表なんてしなくていいんじゃないか』
『今さら遅いだろう』
『今さら公表したら大変なことになるぞ』
『公表したら何億円の損失が発生するかわからないぞ』
こんな声が、聞こえてきました・・・。

『え、ええー！！有名な食品会社さんの食品の対する信頼ってすごいものがあるから、今すぐ公表して、いろいろ対応すべきじゃないの？えー、びっくり。あー、でも、私を取締役にに入れてくださったB社長も、なにも発言しないってことは、公表しないことに賛成なんだろうなあ。やっぱり空気を読むのは大事だよな。それに、取締役になって会社から役員報酬をもらっているのに、会社に対して厳しく「公表しろ」なんて言えないよな。しかも、株主から責任追及されるっていう話もあるみたいだし。よし、今日も、空気を読んで、何も発言しないで黙っていよう』

すると、さきほどの取締役がまた発言しました。

『みなさん、ご意見はないでしょうか。
どなたもご意見がないということであれば、いかがでしょう。公表すべきというご意見の方がいたら挙手していただき、いなければこのまま本件は一旦、現状のままにしておこうと思います。
それでは、公表すべきというご意見の方、挙手をお願いします』

・ ・ ・ ・ ・

(誰も挙手
しない)

会議終了



・ ・ ・。

だれも挙手しませんでした。

『それでは、本件は一旦、このままということで、次の議題にうつります』

こうして、この日の会議は終了しました。
それから、数日後のことです。

Aさんの携帯電話がなりました。

『プルルルル』

『あ、B社長からだ、なんだろう。はい、もしもし』

『Aさん、いま大丈夫でしょうか？なんと、先日の菓子パンに未認可添加物が入ってしまっていた件が、どこからかバレてしまい、これからスクープ報道が出ることになってしまいました。おそらく、これから大炎上するでしょうし、巨額の損失が生じ、株主からも責任追及がなされると予想されます。

取り急ぎ、緊急で会議をしますので、本社に来てもらえますか？』

『は、はい、わかりました』

未認可添加物 混入事件 大々的に報道

10億円

株主代表訴訟
取締役全員
個人で
損害賠償責任

担当取締役
5億円
その他の取締役
2000万円

こうして、未認可添加物の混入事件が大々的に報道されてしまいました。

その結果、この会社では、未認可添加物が混入した事実を途中で知りながら販売を継続し、混入判明後も全取締役がこれを隠蔽したということで大炎上してしまいました。

その結果、株価は大暴落、提携販売先に対する損害賠償、信頼回復のためのキャンペーンその他さまざまな対応を余儀なくされました。

この結果、なんと、この会社には10億円の損失が発生してしまいました。

そして、同社の取締役の全員が、株主から、株主代表訴訟を提起されてしまいました。

その結果、同社の取締役は、それぞれ、個人で、損害賠償責任を負わされることになってしまいました。

損害賠償の金額としては、
担当取締役は5億円、
関与していなかった取締役は2000万円の損害賠償を命じられることになってしまいました。

<参考>

取締役など役員の方が、会社に対して、個人的に賠償責任を負う一例をマンガ形式でご紹介しました。

実際には様々なケースがあって一概には判断できず、難しい面が多々あり、実際に賠償責任を負うことになるかどうかについては、様々な事情を総合考慮して判断されることが多いですが、まずは、法律上、役員の方が会社に対して、個人的に賠償責任を負う可能性が、理論上はあるということは認識しておく必要があると思われます。

ちなみに、今回のマンガは大阪高等裁判所の平成18年6月9日判決及び平成19年1月18日判決をモデルに創作したものであり、同事件ではメインの担当者である取締役には約53億円、その他の取締役には約2億円から5億円の賠償が命じられ、報道等がなされた当時、耳目を集めました。

役員に就任する際は、そういったリスクがあることを認識したうえで、日頃から役員として求められている責任を果たせるよう注力するとともに、いかにリスクを予防するか、また、保険も活用できるかなども事前に検討したほうが良いかもしれません（この物語は制作時点の情報に基づくものであり、法令改正・判例変更等の可能性がありますので最新情報をご確認ください）